

3.2-4 再稼働の是非は福島第一原子力発電所の後始末を終えてから判断すべきでは？

何事も全て始末してからというのは言うは易く、不可能な場合だっていくらもあります。風邪を治して出勤する、トイレに行ってから学校へいく、程度問題です。それがクリティカルになるかならないかで決まるものでしょう。

福島を例にとれば、福島第一のような事故を起こさない、そして大被害、大災害に至らないという見極めをすればよいのです。いろいろあるでしょうが、いくつか取り上げると、

- ・ 所内電源が長時間不能になり冷却系ポンプなどが止まった、
- ・ さらに炉内の燃料が高温になり、メルトダウンした、
- ・ 代わりの直流や交流の電源も海水をかぶって必要電力がだせなくなった、
- ・ 冷却水が失われ、燃料棒が炉内で露出し水蒸気と燃料棒の接触により水素が発生、爆発にいたった等々。

これらもろもろに対し対応措置を準備しておけばリスクは限りなく減ります。単に発電所内外をきれいにする、整備するといった話ではないのです。そのほか考えられる事故や事象に対する対策も必要です。見かけ上それらが不十分に見えても、以上の対応措置一ハード、ソフト、人間的訓練一があることがまず必要です。(2014年4月回答)

